報　告

近畿病院図書室協議会第104回研修会

研修部

日時：2004年3月26日（金）10：00～12：00
場所：コープ・イン・京都
プログラム：
1．臨床研修必修化に伴う情報源の整備
　－調査と考察－
　　星ヶ丘厚生年金病院　首藤佳子氏
2．当院における図書業務の取り組みについて
　　耳原総合病院　小川　香氏
3．図書室開設準備の一年
　　京都桂病院　渡邊朋子氏
4．病院医学雑誌と図書館員
　　京都市立病院　重富久代氏
5．病院機能評価にむけて図書室改善のとりくみ
　　刈谷総合病院　塚本誠子氏
参加者数：38名

今回は5題の演題発表があった。

1席目は、平成16年度からの臨床研修制度の変更に伴い、情報ツールをいかに整備し、利用に供してゆくかについての報告であった。ここ数年の図書館環境をめぐる変化は大きく、医療界の動向など図書館業務の知識以外の情報収集能力も、担当者にとって必要であると考えさせられた。

2席目は、耳原総合病院図書室の変遷と担当者再配置による効果についての報告であった。図書館は、とかく経費がかかるといわれる部門であるが、担当者がいることによって業務の効率化がはかられ、経費節減につながったという内容であった。

3席目は、京都桂病院図書室の開設準備において図書館員の果たした大きな役割についての報告であった。開設後に図書館がうまく機能するためには、専門職としての人員の配置を最初にすべきであると確信した。

4席目は、病院医学雑誌の編集作業についての報告であった。最近、病院図書館の担当者が病院医学雑誌や院内報の編集に携わっているという話を耳にすることが多い。編集手順や雑誌の CD-ROM 化など、常日頃文献に接している図書館員の視点が活かされた試みとして興味深く聞くことができた。

5席目は、機能評価に向けた図書館改善についての報告であった。図書館移転から受審までの短期間に、担当者が費やした労力と努力の結果高い評価を受けたことに敬意を表したい。

以上、今回の事例・研究報告会では、図書館整備についての話題が中心となったが、いずれの演題にも共通することは、図書館員の果たす役割の重要性の再認識であった。図書館員は、専門性の高い職種であり、病院内で担当者として認知を得るためにもスキルアップに努めることが必要であると考える。研修会もその一助になればという思いを強くした。

（文責：林　伴子／社会保険神戸中央病院）